

業概要

メディア（映画・マンガ・アニメーション・広告）におけるリテラシーを読む。

日本の映画やアニメーションなどを中心に、そこに表象される意味を読み解いていく。明治期から戦前にかけて、メディアを使用し、一般大衆に何を告げていたのか。メディアはどのように利用されてきたかを具体的に歴史や政治動向から考察し、現代メディアにどのように反映されているかを講義する。

授業計画

第 1 回	メディアとは何か。
第 2 回	明治期政治運動と風刺マンガ
第 3 回	明治のトップジャーナリスト宮武外骨
第 4 回	メディアを取り巻く政治的な動き
第 5 回	戦争とメディア
第 6 回	戦時下の子供向け雑誌と少女雑誌
第 7 回	戦時下の少年雑誌とマンガ
第 8 回	紙芝居
第 9 回	日本統治下の外地を描いたマンガ
第 10 回	戦時下の広告
第 11 回	War Guilt Information Program
第 12 回	占領期のメディア
第 13 回	テレビの登場
第 14 回	SNS の活用方法—コロナウィルス報道を考える
第 15 回	報道しない自由とフェイクニュース
第 16 回	筆記試験

到達目標

過去のメディア、特にエンターテインメントメディアのなかに潜む問題を具体的に学ぶことにより、現在のメディアリテラシーに反映することができる。

履修上の注意

積極的に授業へ参加。事前に調べたことやもともと知識としてあることなどを踏まえ、参加すること。小レポートではそれを反映させる。

予習・復習

授業後に小レポートを提出。事前に予習内容を知らせるため、それをそのレポートに反映すること。授業で質問したことに対し、回答を必ずレポートに記入する。復習は筆記試験ではかる。

評価方法

事前に調べた予習は、毎回の小レポートに記述する。
授業内小レポート 50%。筆記試験で 20%。最終試験で 30%。

テキスト

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考資料を授業内で指示する。